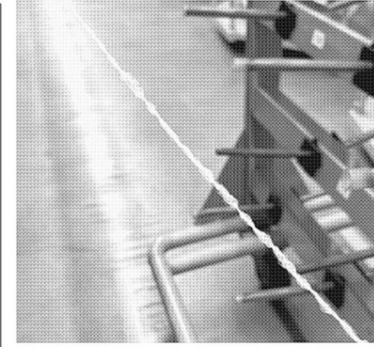


村昭繊維興業（石川県宝達志水町）は、カーテンなどに使われる難燃性の繊維で国内5割超のシェアを誇る。繊維の加工を通じて防災に寄与しつつ、社員の目による徹底した検査で品質を維持する。新素材の開発にも注力しながら、繊維業界を根底から支える。

村昭繊維興業の本社工場では絶え間なく機械音が鳴り響く。国内の大手繊維会社を顧客に持ち、仕入れた原糸を加工し機能や強度を高め繊維会社に引き渡すのが役割だ。ポリエステルなどの合成繊維に熱やよりを加えることで、ウールのようになふんわりとした触感を表現する「かさ高（たか）加工」と呼ばれる加工技

難燃性繊維シェア5割超



「かさ高加工」を施すことで化学繊維にふんわりとした質感を持たせる

村昭繊維興業（石川県宝達志水町）

術を施した糸を、月に約300〜350ト生産する。糸の強度が増すほか、使い心地が良くなり、染色作業もしやすくなるという。

こうした加工系の中で、大手インテリア会社が使われる難燃性の糸だ。火災が発生した際に炎が燃え広がりにくくなるなど、防災の観点から引き合いが強い。

糸に難燃性を持たせる加工は、染色時に薬剤でまとめて施すのが一般的

村昭繊維興業の概要

沿革	1951年 市村織物工場として創業
	1966年 村昭繊維興業に改組
	1973年 かさ高加工専門に転換
	2001年 現市村昭代史社長が就任
本社	石川県宝達志水町
主力事業	かさ高加工系の製造・販売
資本金	2000万円
売上高	13億4700万円（2024年9月期）
従業員数	48人

防災や素材開発に注力

の新品開発も手を抜かない。一例が機能性と再利用のしやすさを両立した繊維の開発だ。糸に伸縮性を持たせるには、ポリウレタンなどゴムのような性質を持つ繊維を編み込むのが一般的だ。ただ複数の材料を使うため分別に手間がかかり、再利用しにくい難点がある。

村昭繊維興業では、熱を加えた時の収縮度合いが異なるポリエステルを組み合わせた糸の開発を進める。この糸にかさ高加工を施すことで、ポリエステルのみでも伸縮性に優れながら、再利用しやすい素材ができあがるという。

市村専務は「これまでの人力に頼った生産体制には限界もある」として、検査から梱包までを自動で担う機械や、人工知能（AI）を活用した検査体制の導入も視野に入れる。職人たちの経験と最新技術の両輪を回し、繊維業界の縁の下の力持ちとして存在感を高める。

（坂田耀）